

紀伊民報

発行所 © 紀伊民報社
和歌山県田辺市秋津町
100番地 〒646-8660
電話・0739 (22) 7171 (代)
営業FAX・0739 (26) 0077
編集FAX・0739 (25) 3094
振替口座・00930-2-21977

和歌山支局
電話 073 (428) 7171
中本支局
電話 0735 (62) 7171
新宮通信部
電話 0735 (31) 7174

田辺工勢が活躍決勝へ 体操少年男子



2015 紀伊国体

わかやま国体体操競技の少年男女予選が11日、和歌山市の和歌山ビッグホールであった。田辺工業高校のメンバーが中心の県男子チームは326・050を記録、出場29チーム中9位として13日の決勝進出を決めた。女子は203・250で8位とし、13日の決勝に進んだ。

男子は各チーム5人が、あん馬▽つり輪▽跳馬▽平行棒▽鉄棒▽ゆかの6種目を演技。各種目の上位4人の得点を足して順位を付けた。

県チームは、田辺工業高の3年長坂朋弥君、佐々木侖緒君、2年の筒井宏樹君、1年の高田佑貴君と、和歌山北高3年の関口汰希君が出場。少しミスはあったものの、メンバーは「ごんまい」「次はしっかり」などと互いに声を掛

け合い、悪い流れを引きずらなかつた。会場へ駆け付けた同級生らの大きな声援もチームの背中を押しした。女子は跳馬▽段違い平行棒▽平均台▽ゆかの4種目を各チーム5人が演技。和歌山北高などのメンバーで臨んだ。

高得点雰囲気から

「チームとして、よい演技ができたと思う。男子チーム主将の長坂君は、そう予選を振り返った。ポイントになったのは鉄棒だった。

高田君がD難度の離れ技「伸身ヤマワキ」でミスを出してしまつた。続く関口君が落下。悪い流れが続きそうな場面、佐々木君がチーム最高となる18・950を記録。雰囲気を一変させた。

失敗が許されない状況で、佐々木君は「3年間で初めて演技前に足が震えた」が、大きな声援が聞こえて安心できた。「会場が和歌山じゃなかったら、やばかったかもしれない。終わった時は、いつもより疲れを感じました」

筒井君は緊張はあったが、皆が声を出してよい雰囲気をつくれた。普段通りの演技ができた。1年生の高田君は「危なっかしいところを先輩に助けてもらった。決勝ではミスを出さず、僕が引っ張れるようにしたい」と気を引き締めていた。

12日には同じ会場で成年男女の競技(決勝のみ)がある。男子は13チーム、女子は10チームが出場する。県男子チームでは、田辺工業高出身の柴田快輝さん(22) 田辺市役所 楠川雄太さん(19) 順天堂大1年 11日が出場する。



あん馬の演技を終える田辺工業高校3年の長坂朋弥君と、拍手で盛り上げる和歌山県チームのメンバー
11日、和歌山市の和歌山ビッグホールで